

4枚の古写真を追って -昭和初頭の神保原の風景-

はじめに -古写真を追って-

上里町立郷土資料館では、かつて町内で生活した人々についての資料を集め、彼らの暮らしの様子を調べています。今年5月、大字神保原町在住の方から4枚のモノクロ写真が当館に寄贈されました。確認したところ、これらは今では見るできない、かつての光景が記録されていました。今回は、この写真が何を写したもののなのか推理したいと思います。

寄贈資料の特徴-4枚の古写真について-

寄贈された古写真は、全部で4枚です。いずれもモノクロ写真で撮影時期は不明です。これらは厚紙で作られた台紙に貼り付けられており、「M. KOBAYASHI 小林写真館」とロゴが印刷されていました。小林写真館は、平成の前半ごろまで神保原駅前にあった写真館です。これにより、4枚の写真は小林写真館によって撮影されたものであることが判明しました。

写真に写されていたモノ-写された風景を読み解く-

4枚の写真は、いずれも大字神保原町に所在する石神社（せきじんじゃ）で撮影されたものでした。

寄贈された古写真のうち、一枚目（写真1）は、石神社の社殿を撮影したものでした。写真には、木造の社殿と狛犬（こまいぬ）、参拝客が写っています。石神社は、現在も大字神保原町の鎮守として地域の人々から信仰を集める神社です（写真2）。この社殿は昭和30年頃に建替えられ、現在は見るできませんが、狛犬は今も古写真と同じ場所に安置されています（写真3）。



写真1：一枚目の古写真

木造の社殿の左右に真新しい狛犬が写っています。撮影された風景はお祭りの様子でしょうか、社殿の右側には提灯が下げられ、多くの参拝客が見えます。また、屋根は瓦葺きであったことがわかります。

写真2：現在の石神社の様子

社殿は昭和34年に建て替えられており、現在はコンクリート造りで屋根も銅板で作られています。

写真3：現在の狛犬

長い間、風雨にさらされ苔むしていますが、写真と同じ位置に今も安置されています。



写真2



写真3

二枚目（写真4）は、同じく社殿の前で撮影されたものでした。紋付袴を着た年配の男性、笛を吹く若者、三体の獅子舞、その前で踊る子供たちの姿が写っています。石神社では、かつて獅子舞が行われており、写真はその獅子舞を撮影したものと考えられます。この獅子舞は昭和期には行われなくなっており、現在では幻の獅子舞の一つです。写真は当時の獅子舞がどのようなものだったかを伝える大変貴重な資料といえます。



写真4：二枚目の古写真

二枚目の写真には、獅子舞とその演者達の生き生きとした姿が映されていました。石神社の獅子舞は、毎年10月に行われていたもので、雨乞いを祈り行なわれたものと伝えられています。また、その歴史は古く、江戸時代以前から行なわれていました。

三枚目の写真も境内を写したものでした（写真5）。人だかりができ、老若男女で賑わっている様子が写されています。また、左奥には舞台が作られており、その上で講談師と思われる男性が演目を披露している姿が写っています。また、手前左側には、露天商があり、子供たちが並べられた商品をのぞき込んでいるのが分かります。



写真5：三枚目の古写真

三枚目の写真には、境内にできた人だかりが写されていました。子供から老人まで様々な年代の男女が集まっています。左奥の舞台には講談師と思われる男性が立っており、集まった人々の注目を集めています。また、人だかりの手前には露天商と子供達が写っています。当時の人々の熱気を感じる写真です。

四枚目の写真（写真6）には、お祭りの様子が写されていました。中央には山車（だし）が写っており、その上でお囃子が演奏されていることが分かります。また、写真に写る人の服装も様々で、和服やハッピーを着た人、スーツとシルクハットでおしゃれした人などが見て取れます。

🌸 撮影された時期はいつ？ - 写り込んだ二つの手がかり -

4枚の古写真は、撮影日の記録がないため、いつ撮られたものなのか特定が困難でした。しかし、これら写真には、その手がかりになるものが二つ映り込んでいました。その一つは、一枚目の古写真（写真1）に写った狛犬です。この狛犬は写真で見ても分かるように、白く真新しいものでした。現在、この狛犬の台座には昭和3年（1928年）に作られたことが記されています（写真7）。そのため、この写真は狛犬の設置された昭和3年頃に撮影されたものと考えられます。二つ目の手がかりは、四枚目の古写真（写真6）です。右側に「式宮遷御」と書かれたプレートが写っています。これは右から「御遷宮式（ごせんぐうしき）」と読み、三重県の伊勢神宮で行われる「式年遷宮（しきねんせんぐう）」という行事を指す言葉です。20年に一度行われる行事で平成以前では、昭和4年、昭和28年、昭和48年の計3回が行われています。1枚目の写真の狛犬が昭和3年に作られたとすると、4枚目の写真もその直後の昭和4年に撮影されたものとはなだんできません。そのため、ほかの写真もこれと同時期の昭和初め頃の撮影と考えられます。



写真6：四枚目の古写真

四枚目の写真には、お祭りの様子が写されていました。奥には、山車が停車しており、その上で祭り囃子の演奏が行なわれています。また、様々な服装の人々が写っており、中央にはスーツにシルクハットと蝶ネクタイを着けた男性が写っています。

写真7：狛犬の台座に書かれた銘文

石神社に安置される狛犬には、現在も「昭和三御即位年一月拝殿建築記念」という文字を読み取ることができます。このことから、昭和天皇が「即位礼」（即位の儀式）を行った昭和3年に神社の建替えを行い、その記念として狛犬の設置が行われたことがわかります。また、写真上部に見えるのが狛犬の爪です。なぜだか、ちょっと、かわいらしい印象を受けます。



🌸 まとめ - 古写真から分かること -

今回、寄贈された写真はいずれも昭和初め頃の石神社の風景を撮影したものでした。服装や獅子舞等、現在では知ることができない貴重な町内の風景が写されていました。これらは当時の人々の生活や神保原の様子を知るうえで重要な資料になります。また調査をしていて、それ以上に昭和初頭を生きた人々の熱気や生き生きとしたエネルギーを感じることができる貴重な写真だと思います。

上里町立郷土資料館では、町内の風景を撮影した古い写真を調査、収集しています。写真はその場でデジタルスキャンし、ご返却することができます。ご協力いただけるようでしたら文化財係 担当 林までご連絡ください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

（生涯学習課・郷土資料館 文化財係 林 道義 作成）

【謝辞】

今回、紹介した資料は、岸菜穂子 様より御寄贈頂きました。この場をお借りして謝意を表します。

【参考文献】

上里町史編集専門委員会編『上里町史』別巻 上里町 1998年
上里町史編集専門委員会編『上里町史』通史編下巻 上里町 1996年